

平成 29 年度シラバス (水産海洋科学)

学番 78 新潟県立海洋高等学校

教科 (科目)	水産(水産海洋科学)	単位数	2 単位	学年 (コース)	2 学年 (資源育成コース)
使用教科書	水産と海洋の科学 (海文堂)				
副教材等	なし				

1. 学習目標

水産・海洋に関する基礎的な知識を習得させ、水産業に活用する能力と態度を育てる。

2. 指導の重点

水産業に従事する上で、海洋における資源や環境の知識が必要になることから
 ①海や水産の関わる基礎・基本を習得し、水産物や船、水産・海洋資源に興味・関心を持つことを目指します。
 ②海洋の環境問題に関する知識の習得を目指します。
 ③水産業の発展や水産物の高度利用に関する知識の習得を目指します。

3. 学習計画

月	単元名	教材	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	海洋と生活	1 海洋の知識 2 水産資源の育成と漁業	○海洋の知識について理解する。 ○増養殖及び漁業生産の技術について理解する。	2 4	授業の取組 ・態度 定期考査 ノート
5	1 学期中間考査	3 水産物の需給と流通	○水産物需給や流通について理解する。	3	
6	1 学期期末考査	4 食品としての水産物	○食品加工、魚食文化について理解する。	7	
6		5 船の役割	○船の種類・設備や運航・操縦について理解する。	7	
7	海洋の科学	6 海洋政策と海洋関連産業	○海洋基本法や海洋産業について理解する。	4	
9		1 海洋の地形と海水の組成	○海底地形や海水組成について理解する。	4	
10		2 海洋と生命	○海洋生物について理解する。	4	
11		3 海洋と気象 4 海洋の資源・エネルギー 5 深海の世界	○海上気象について理解する。 ○海洋資源について理解する。 ○深海環境・生物について理解する。	4 3 3	
12	2 学期期末考査	6 海洋と環境問題	○環境保全・問題について理解する。	3	
1	水産の新しい展開	1 水産業の新たな姿 2 水産物の高度利用	○6次産業化について理解する。 ○魚介類の有効利用について理解する。	4 4	
2	探求活動	1 探求活動の進め方	○探求活動の考え方や方法について理解する。	4	
3	学年末考査	2 探求活動のテーマ	○探求活動の実践例について理解する。	4	

計 64 時間 (55 分授業)

4. 課題・提出物等

定期考査終了後にノートを提出する。

5. 評価の規準と評価方法

評価は次の 4 観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
水圏の生態系とプランクトンについて関心を持ち、意欲的に授業に参加して、内容を理解しようとしている。	基礎的な実験や観察を通して、海洋生物の分類、形態、生態について発展的に考えようとしている。	実験や観察の技法を身につけ、実験・観察を基に水産物の分類、形態、生態についての特徴を正確に表現することができる。	水圏の環境・生態系、植物プランクトン及び動物プランクトンの種類と役割について理解している。
以上の観点を踏まえ ○授業への取り組み状況 (授業態度、学習への参加状況等) ○ノート等の提出物 ○定期考査などから、総合的に判断します。			

6. 担当者からの一言

海や水産に関わる基礎知識や海洋における環境問題などについて詳しく学ぶことができます。
 (担当：貝田雅志、増田真之介)